

# 平成25年度 上越市社会科部 活動報告

部長 仁田 秀三

## 1 研究主題

児童生徒が社会科的事象に積極的にかかわり、社会的な見方・考え方を身につける社会科授業のあり方

## 2 研究の概容

今年度は、二つの研修を行った。一つは、地域の歴史的施設である「直江津捕虜収容所跡地：平和記念公園・展示室」の巡検を実施した。もう一つは、新潟県小学校教育研究会から指定を受けた上越市立大潟町小学校の研究発表会に参加し、社会科教師としての力量を付けることにした。

## 3 研究の実際

### (1) 直江津捕虜収容所跡地「平和記念公園・展示館」施設の活用研修会：7月31日

上越日豪協会会長：近藤芳一様を講師として、現地施設の活用研修会を実施した。

直江津捕虜収容所は、太平洋戦争開戦の翌年、昭和17年12月に設置された。この地に、最大時700人余りの豪・英・米・蘭の捕虜が収容され、苦役を強いられていた。戦後、その戦争犯罪として元直江津捕虜収容所の日本人看守らが処刑された。跡地に建てられた展示館内には多数の資料が展示され、悲惨な歴史が同地で起きていたことを学ぶことができた。



### (2) 大潟町小学校(県小学校研究会指定社会科研究発表会)の公開授業：11月15日

- 3年生授業 授業者：姥貝栄次教諭 単元名：店ではたらく人
- 4年生授業 授業者：中澤和仁教諭 単元名：わたしたちの大潟をひらく
- 5年生授業 授業者：野口正行教諭 単元名：自動車をつくる工業
- 6年生授業 授業者：渡邊卓司教諭 単元名：長く続いた戦争と人々の暮らし

「自らかかわり、考え判断する子ども」「自分の考えを自分の言葉で表現する子ども」を育てるという願いを実現するため、キーワードを「自分ごと」と設定した。学区内の地域素材を教材化したり、事象と子どもがかかわる指導過程を工夫したりした。そのため、子どもたちが明るく活発な意見交流を行うことができた。



## 4 成果と課題

- 地域素材の発掘と教材化のために、歴史的施設の活用研修会を実施したことは、大いに授業づくりへと役立った。  
今後も、上越市の地域素材を教材化するための研修を実施したい。
- 大潟町小学校で社会科の授業を参観し協議会に参加したことで、優れた授業に学び、社会科教師としての力量を付ける一助になった。最近では、社会科の授業公開が減少する中で、社会科の指導方法に不安をもつ教師が増えているのが現状である。